

暴力には、力ではなく愛で闘おう

JIM-NET 代表理事 鎌田 實

不寛容な世界が、ますます広がりだしている。自分と考えが違ったり、自分と宗教が違ったり、肌の色が違ったり、少し何か自分と違っていると、その違いを認めることができず、バッシングが起きる。インターネットの世界もそうだ。特に顕著だ。子どもたちの学校の中でも、異質の子どもたちを排除しようとする、いじめの力学が働いている。悲劇的な自殺すら起きてしまう。

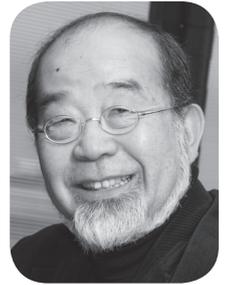
世界はもっと、さらに、不寛容になりだしている。ついに世界の難民が6500万人に達した。近々7000万人を超えるのではないかとされている。地球上に7000万人もの難民がいるということは、大きな問題になる。自分にとって関係のない話ではない。もっと積極的に、難民問題に愛の手を差し伸べる必要があるように思う。

難民キャンプで、JIM-NETはイラクやシリアの子どもや障害のある人たちに、手を差し伸べてきた。難民キャンプで健康づくり運動もしてきた。故郷にいつか帰るそのときまで、健康をどうやったら守れるか。たくさんの難民が集まって、にこにこしながら僕の話聞いてくれる。「①減塩 ②野菜をたくさん食べる

③歩こう ④生き甲斐を持つ ⑤自分より困っている人を見たら、難民だから何もできないと思わず、自分も手を差し伸べる側に回ろう」。これが、鎌田流の難民キャンプでの健康づくりだ。

暴力に暴力で戦うスタイルではなく、暴力に愛で闘おうと、僕たちJIM-NETはしてきた。それを支えているのは、毎年冬におこなっているチョコ募金だ。いよいよ始まる。今年も16万個、つくりました。このお金で子どもたちの薬を買ったり、難民キャンプでの生活の立て直しのための仕事を与えたり、病院へ通うための交通費を出したり、リハビリを助けたり、たくさんの愛の手を差し伸べる支えになります。

皆さんのご協力が、小児がんの子どもたちや、難民への愛へつながっていくのです。ぜひ、今年もたくさんの方にお声をかけてください。SNSや口コミを利用して、ぜひぜひたくさんの方に応援を広げてください。よろしくお祈りします。



チョコ募金 2017 は、2016年12月1日(木) AM10:00より電話受付開始 TEL 03-3209-0051
FAX (03-3209-0052) 郵送は11月1日(火)、ホームページは11月14日(月)から先行受付いたします。



NEWS

暴力には、力ではなく愛で闘おう……鎌田 實 (JIM-NET 代表理事) P1

チョコとヨーロッパの4つの物語～物語のあるチョコレート・ヨーロッパ編……佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長) P2

JIM-NET プロジェクト 活動報告……P4

チョコ募金 2017 イベントカレンダー……P4

JIM-NET の最新情報はこちらから!

URL <http://jim-net.org>

Facebook <https://www.facebook.com/JapanIraqMedicalNetwork>

Twitter https://twitter.com/jim_net

チョコとヨーロッパの4つの物語

～物語のあるチョコレート・ヨーロッパ編～

佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長)

2015年には大量の移民がヨーロッパに渡りました。その数は180万人を超えています。

イラク戦争とその後の混乱、シリアの内戦、そして「イスラム国」の台頭により多くの難民が発生しました。彼らは、近隣の安全な国や地域に避難していましたが、より安定した暮らしを求め、突然ヨーロッパに大移動を始めたのです。難民問題というよりは、民族の大移動に近いものを感じます。彼らはパスポートを持たなくても、お金さえ出せば簡単に国境を超えられるのです。

「イスラム国」にしても、イラクとシリアにまたがり、いきな

り建国宣言がなされたわけです。近代国家の概念が壊され、新しい秩序に向かっていくのかもしれませんが。

一方、難民を受け入れる側のヨーロッパにしても、イギリスは国民投票の結果EUを離脱。歴史が大きく動きだしました。

JIM-NETのチョコ募金もそのような大きな流れをとらえ、ヨーロッパへ移住したがん患者を中心に物語を追いかけました。物語の主人公、4人の少女が描いた絵がチョコの缶になりました。

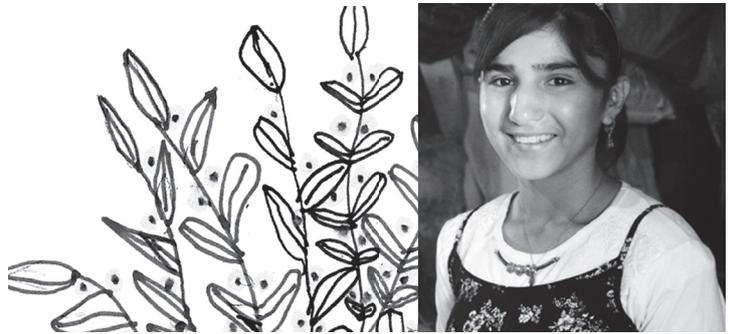
ついでに、僕個人としてチョコをかじりながら聞いてほしい音楽をチョイスしてみました。

～最後の楽園～オリーブ

ローリン (15歳) は、イラクのシリア難民キャンプに暮らし、白血病と闘っている。

難民キャンプから病院までは2時間近くかかるため、検査の前日にJIM-NETの事務所に父と一緒に泊まりに来る。父は、やせていて、白髪が目立つが髪を伸ばしている。顔には深い皺が刻まれて人生の苦悩を物語っている。僕たちは、一緒にビジネスを考えて夢のようなサクセスストーリーを出し合い、隣ではローリンが絵を描いたりして遊んでいる。

ある日、父親の人生を聞いてみた。シリアではトルコ国境の田舎で育った。それなりに裕福な農家だった。「(小学校)6年生の時、おばが夫と子どもを殺すという事件が起きた。その罪を親父がかぶることになり、刑務所に連れていかれた。7年間のムシ暮らしだったが、心臓発作で死んでしまった」。ローリンの父は上の学校には行かず、働かなければならなかった。18歳の時、第4次中東戦争が始まり徴兵された。その後も軍にとどまり、ゴラン高原で地雷除去の仕事をしていた。「4年間で、たくさん掘った。そーっと、土から掘り出し、友達に離れろと言って、ボンとやるんだ。手足を失った友達もいるし、死んでしまったやつもいる」。ローリンの父親は、軍隊でいろいろな技術を身につけて、



退役後は車の修理やTVの修理などで生計を立てていた。イラクに来てからは、ローリンの面倒を見るために定職につくこともできなかったが、昨年よりJIM-NETから屋台を借りて、かき氷や豆のスープを売る仕事を始めたところだ。

「ヨーロッパ? 行く気はない」父親はきっぱりと言い放った。

「それより、シリアのカボチャを見つけたんだ。これを探すのに2年半かかったよ。」

父親は、畑を借りてシリアのカボチャを植えた。間もなく収穫を迎える。カボチャのビジネスが成功することを祈ろう。

♪ちよこつと一曲 “The last resort” by Eagles

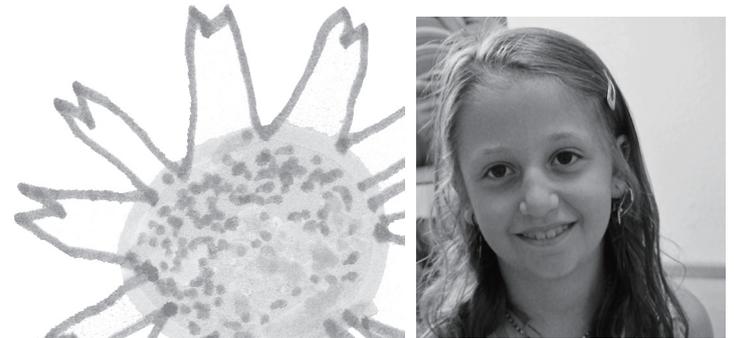
移民として難民のように、夢と希望を鞆に詰めてヨーロッパからアメリカに渡った白人の哀愁をうたっています。

～移民の歌～マーガレット

サルディン (9歳) は少数派のヤジディ教徒。母親のハナーンはJIM-NETで働いてくれていた。

2014年6月「イスラム国」がイラク南部のモスルを制圧した。同年8月3日には、ヤジディ教徒が多く住むシンジャールの町が襲われた。治安を守っていたクルド自治政府の軍隊が、その朝突然いなくなってしまったのだ。逃げ遅れた人々は、男性は殺され、女性は戦利品として、イスラム国の兵士の妻とされた。40万人のヤジディ教徒のうち、5000人以上が殺され、3000人以上が拘束されたままだという。

ハナーンは、避難してきたヤジディ教徒にJIM-NETが毛布を配っていた時、隣で古着を配っていた。彼女の一家は、「イスラム国」の襲撃を受ける前に避難したので助かった。「イスラム国」



から解放されたばかりの女性たちは彼女のところに相談に来る。レイプされた女性たちの健康診断や薬代をJIM-NETが負担した。

また、彼女は今年のチョコ缶のポインセチアを描いてくれたナブラスの家にお金を届けたり、冷風機を取り付けたりするなど、がんの子どもたちの支援にも協力してくれた。

ハナーンは、昨年12月、イラクを出る決意を固めた。

「レイプされた少女たちの話をたくさん聞いた。自分にも娘が3人いるから、同じようなことがまた起こるかもしれないと思うと、逃げるしかない」。

イラクからトルコに渡ったとき、障害者の兄はバスの中で息絶えた。イスタンブールでは、強盗に襲われた。ドイツにたどり着くとストレスのせいか腹膜炎を起こして手術を受けた。

ドイツに渡った一家の暮らすアパートの壁には、JIM-NETと一緒にいった支援活動の写真がいっぱい貼られていた。「イスラム教徒ではない」という理由で、根絶の危機に直面するヤジディ教徒たち。ハナーンは、どんなに苦しい時でも、人のために働く

ことが「イスラム国」への抵抗だと思っている。

ハナーンは語る。「ドイツで難民として認められたら、娘たちを置いて、イラクに戻りJIM-NETで働きたい」。マーガレットの絵は、ハナーンさんの次女、サルディンが描いた。

2016年10月18日、イラクのアバディ首相はモスル解放作戦が始まったことを宣言した。「イスラム国」が滅び、シンジャールの再建が始まる日は来るのだろうか。

♪ちよこつと一曲 “Immigrant Song” by Led Zeppelin
戦闘を思わせる雄たけびから始まる曲は、バイキングとアングロサクソンの戦いをテーマにしているようです。欧州民族大移動の歴史を感じさせます。

～あしたは良くなる～チューリップ

イマーン（11歳）と出会ったのは、2013年の1月ごろ。イラクのがんの子どもたちのお土産に、福島復興のシンボルとなった赤ベコを持っていき始めたころだ。何人かの子どもに赤ベコの絵を描いてもらい、イマーンの絵が一番面白かったのでチョコのパッケージに使った。医者は、骨髄移植をしないと助からないという。JIM-NETはイラク国内で骨髄移植ができるように、頑張って技術支援などをしてきた。だが、イラクの治安が安定しないこともあり、患者は海外で高額な治療を受けるしかなかった。

幸いにもイラク政府のプログラムで、インドで移植を受けることができた。しかし、政府の資金が滞り、後が続かなかった。このときは7人の子どもが骨髄移植を受けたが、フォローアップがうまくいかずに4人が死んでしまったのである。

イラク中央政府とクルド自治政府の間で石油の利権をめぐる対立がおこり、中央政府の予算がクルド地区へと届かなくなった。さらに、石油価格の暴落や「イスラム国」との戦争で、政府の支出が増え、財政難に襲われることになってしまった。そこで、JIM-NETが資金を負担し、イマーンを含めた3名を、フォローアップのためにインドへ連れていった。昨年チョコ缶の水仙の絵を描



いてくれたナジラもその一人だ。

ところがその後、イマーンと連絡が取れず、どこにいるのかわからなくなってしまった。ヨーロッパに行ったのではないかという噂も聞いた。Facebookを調べてみると、ドイツに移住したことがわかった。今年の4月、早速ドイツまで会いに行くと、イマーンは抗がん剤治療の影響なのか、11歳にしては小さかった。でも、変わらず茶目っ気たっぷり、すっかりドイツの生活になじんでいた。

♪ちよこつと一曲 “Every day I say” by Kulna Sawa (シリアのバンド) イラク戦争でシリアに大量のイラク難民が流れ込み、ヨーロッパを目指す彼らを横目で眺めているシリア人の若者の複雑な思いが感じられます。

～帰る人たち～バラ & ジャスミン

今年の春、タハニ（16歳）の暮らすアパートに到着した時は、満月が顔を出していた。

2012年の6月、シリアのアルハラにあるタハニの自宅に、いきなりアサド軍の民兵とヒズボラーの兵士らが入ってきた。家の周りには戦車も来ていて、総勢25名ほどの兵士が襲ってきたのだ。父親を捕まえて連行しようとしたので、当時13歳のタハニは果敢にも「お父さんを連れて行かないで！」と兵士に訴えた。兵士は銃底で彼女の両手を振りほどいた。両腕は折れてしまい、お腹も一発殴られた。

父親は刑務所に入れられた。4か所の刑務所を転々として、4か月後、裁判所は無罪を言い渡し、父親は釈放された。しかし、タハニの骨折した腕は治らず、殴られたお腹も痛み続けた。ヨルダンの病院で折れた腕の手術を受け、お腹の方はがんの疑いがあったため、JIM-NETが費用を出して専門病院で検査を受けた。検査結果は末期がんで「Hopeless（見込みなし）」と言われ、追い返されてしまった。家族は国際移住機関（IOM）に、イギリスへの移住を申し出た。通常では、がんの患者とその家族を受け入



れる国は少ない。ところが幸運なことに、タハニは難民としての移住が決まり、今年9月20日、ヨルダンを去ってイギリスに移った。JIM-NETは痛み止めの薬などを支援してきたが、後はイギリスが面倒を見てくれる。

♪ちよこつと一曲 “Get Back” by The Beatles
ポール・マッカートニーがイギリスで盛り上がったパキスタン移民排斥運動を皮肉って書いた曲が原型になっています。

これからの彼女たちの物語は、JIM-NETのホームページ、Facebookで発信していきます！ご注目ください。

＊イラク

【緊急支援】 イラク政府軍とクルド自治政府、アメリカを中心とした多国籍軍による「イスラム国」からのモスル奪還作戦が進められており、JIM-NET 事務所のあるアルビルでは、民間の飛行場でも米軍の戦闘機やヘリなどが離発着を頻りに繰り返しています。7月頃から、解放された地域から国内避難民が流れ、クルド自治区にできたデバガ国内避難民キャンプには3万人を越す避難民が収容されており、JIM-NET はパンや医薬品を届けました。(写真:「イスラム国」から解放された地域の住民たち。町中は破壊されており学校に避難している)

【小児がん支援】 イラク政府の資金も戦費が優先され、小児がん病棟の医薬品は不足しています。また最近では、負傷した兵士の輸血が必要でがんの子どもたちのための献血をする人の数が減っています。効率のいい成分輸血を行うための輸血用パックをアルビルのナナカリー

＊ヨルダン【シリア難民負傷者・障害者支援】

ヨルダンでは、社会慣習的な理由で女性障害者の外出が難しい傾向があるため、女性障害者が彼女たちの社会参加を目標に考えた活動が、JIM-NET の支援でヨルダン北部のイルビッドで開始されました。

まず、障害当事者である彼女たちが目指す社会と、その実現に向けて何をしたいかを考えるところから始まりました。外に出て集まる機会ができる、一緒に習い事をする事で成長しあえる、腕や手に運動障害がある場合は手を動かすことでリハビリテーションにもなる、ということで、彼女たちが決めたのは編み物の講習でした(写真)。同

＊福島

今年9月14日に公表された最新の福島県民調査報告書によると、福島県の小児甲状腺がん及び疑いのある子どもは、3か月前の172人から2人増えて合計174人になりました。9月1日「子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト・郡山」が、福島県に対して県民健康調査・甲状腺検査に関する要望書を提出し、JIM-NET も賛同団体として名を連ねました。3.11 甲状腺がん子ども基金、311 甲状腺がん家族の会といった支援団体とも情報交換をしていきたいと思っています。

病院向けに発注し、間もなく到着する予定です。

「イスラム国」から避難してきた人々の中にもがん患者がおり、彼らが自費で購入した薬代をできるだけ JIM-NET が肩代わりするようにしています。また、クルド地域の住民の中にも、父親がペシュメルガ(クルド自治政府軍)で「イスラム国」との戦闘に従軍したり、定職につけない貧困家族も多く厳しい状況です。遠方から治療に来る患者家族の宿泊施設を兼ね備えた、がんの子どもと家族の総合支援センター「子どもサポートハウス」の開設を現在計画しています。(佐藤真紀)



時に、活動に誘っても参加できない障害者には、障害当事者同士がお互い平等な立場で話を聞き、支え合う「ピアカウンセリング」を開始しました。家に閉じこもりがちな障害者には、心強い存在となります。

今後も自らの手で生きやすい社会の実現に向けた活動を実施していくことが期待されます。(福田直美)



なお、現在まで実施した今年度の支援は以下のとおりです。

- 「アースウォーカーズ」が実施する子どもの保養、高校生のドイツ研修事業への支援
- 「いわきオリーブプロジェクト」へ中古軽トラックの購入支援
- 「日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)」「福島をリハビリで元気にする会」を通して、福島県内における発達障害児の遊び場支援を実施
- 冊子「福島10の教訓」のアラビア語翻訳版普及活動。9月3日アンマンで元保健大臣、元教育大臣等が参加したワークショップを開催。(佐藤真紀)

チョコ募金 2017 イベントカレンダー 会場でチョコ募金ができます!

◆イベントのお問い合わせ・ご予約は TEL03-6228-0746 / 080-4837-4015 / info-jim@jim-net.net

♥チョコ募金キックオフ「光を世界へ」

チャリティトーク & コンサート

日時: 2016年11月19日(土) 19:00開演(18:30開場)

出演: ウォン・ウィンツァン(ピアニスト・作曲家)、湯川れい子(音楽評論家・作詞家)、斉藤とも子(女優)、鎌田實(JIM-NET 代表理事・医師)

コーラス協力: ゴスペルスパークル、Indiv Notes

会場: 南大塚ホール

JR 山手線大塚駅(南口)下車徒歩約5分

都電荒川線大塚駅前下車徒歩約5分

東京メトロ丸の内線新大塚駅下車徒歩約8分

入場料: 3000円(前売り) 3500円(当日)

小中学生 1000円 / 幼児無料



ウォン・ウィンツァンさん

♥元兵士×元自衛隊員×現 NGO スタッフ

～聞きかたかった戦争・紛争の「リアルな話」

日時: 2016年11月24日(木) 18:30開演(18:15開場予定)

出演: シークレット・ゲスト(元兵士)、井筒高雄(元自衛隊レンジャー隊員)、野川未央(APLA)、佐藤真紀(JIM-NET 事務局長)

会場: 青山学院大学 総研ビル 10階 19会議室

東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線表参道駅下車徒歩約5分

入場料: 1000円

♥安田菜津紀と佐藤真紀の「新イラク紀行」

日時: 2016年12月4日(日) 14:00開演(13:30開場)

出演: 安田菜津紀(フォトジャーナリスト)、佐藤真紀(JIM-NET 事務局長)

会場: 千駄ヶ谷区民会館 集会場

JR 山手線原宿駅下車徒歩約10分

東京メトロ千代田線・副都心線明治神宮前駅下車徒歩約8分

資料代: 1000円(要予約)

♥「いのちの花」Part3 イラクの子どもたちの絵と写真展

日時: 2017年2月10日(金)～15日(水) 11:00～19:00

(最終日は17:00まで) 入場無料

場所: ギャラリー日比谷

東京メトロ日比谷線・千代田線日比谷駅(A4出口)下車徒歩約1分

銀座線・丸の内線・日比谷線銀座駅(C1出口)下車徒歩約2分

JR 山手線有楽町駅(日比谷口)下車徒歩約3分